



01 子どもたちに読書の喜びを

読書は子どもの成長に様々な効果があり、表現力や想像力などを育てることができます。図書館では多くの事業を行い、子どもたちに読書の楽しさや面白さを伝える取り組みを行っています。

「花」を思い描いてください……。今、皆さんは頭の中で何の花を思い描きましたか。花といっても個々で想像するものは違います。『ひまわり・バラ・チューリップ・たんぽぽ……』。花という言葉だけでたくさん想像することが出来ます。この「想像する力」は本を読むこと、お話を聞くことで育てることが出来ます。本に描かれた世界をリアルに思い描き楽しむ、それが読書です。

一冊の本を読み切るには集中力、根気が必要ですが、子どもは読書を楽しみながら自然にその力をつけていきます。大人になってからも、勉強するときに大いに役に立ちます。また、本を読むことで、たくさんの文字、言葉に触れること

ができるので文章力、表現力の向上にも繋がります。そして何よりも実際に子どもたちが「本が好き」「本が楽しい」と感じてもらうことが肝心です。子どもたちの読書意欲向上のためには、本を好きになるきっかけ、『心を動かしてくれる、本物の本との本当の出会い』が大切です。読書は好奇心や知識欲から発する、自由で楽しい営みであり、自主的な個人的な活動です。

テレビや携帯型ゲーム、インターネットなどがあふれ、子どもたちの生活環境は昔に比べて大きく変化しました。こうしたなか、子どもたちに読書に親しむ環境を作ることや自発的に本を読む習慣をつけることを目的に、町ではさまざまな取り組みを行っています。

平成2年の中央図書館開館以降、「読み聞かせ」「ストーリーテリング」「ブックトーク」など、子どもに読書の楽しさを伝える活動をしてきました。これらの取り組みはボランティアの協力があってこそできるもの。「未来の宝」である「子どもたち」に対し、地域や町が一体となって、本の魅力を伝える活動の様子を紹介いたします。



読書の楽しみを子どもに伝える3つの方法

POINT01 読み聞かせ



大人が子どもに本を読み、聞かせることです。読書の基礎となるイメージして楽しむ力が育ち、これをきっかけに本が好きになる子が大勢います。

POINT02 ストーリーテリング



物語のテキストを語り手が覚えて語ります。本の絵に縛られることなく、頭の中で独自の世界を作り出し、子どもの想像力を豊かにします。

POINT03 ブックトーク



対象となる子どもの関心事や読書力を考慮し、本を紹介し、面白本がたくさんあることを、子どもに気づいてもらうことが大切です。

いちごいちえ
特集 一語一絵

ほんとのであい

子どもの頃に読んだ本、何度も何度も読んでもらった絵本。大切な「ほんとのであい」。今月の特集では読書を通じてみんなが笑顔になれる、町ぐるみの取り組みに迫ります。

中央図書館で毎月行われている「ぐりぐらタイム」。「ぐりぐらボランティア」が子どもたちに絵本・紙芝居の読み聞かせを行い、職員が絵本を紹介、指遊びや紙芝居などを行っています。写真は子どもが紙芝居を見ている様子。絵を見て、耳で話を聞くことで、想像力や感性を豊かにしてくれます。